

蔵王山の火山活動解説資料（平成29年10月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。
蔵王山では、2013年から2015年にかけて火山活動の高まりがみられました。その後も火山性地震や火山性微動が時々発生していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

遠刈田温泉に設置している監視カメラによる観測では、6 日、18日及び24日に丸山沢で200mの噴気を確認しました。上山金谷、刈田岳及び御釜北に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

2013年以降、御釜付近の深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震が増加し、やや多い状態で経過しています。

・地殻変動（図 2-④、図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成29年11月分）は平成29年12月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。



図1 蔵王山 山頂部の状況

- ・ 左上図：遠刈田温泉（山頂の東約 13km）に設置している監視カメラの映像（10 月 24 日）です。
実線赤丸で囲んだ部分が丸山沢からの噴気で、高さは 200m です。
- ・ 右上図：上山金谷（山頂の西約 13km）に設置している監視カメラの映像（10 月 24 日）です。
- ・ 左下図：刈田岳（御釜の南約 800m）に設置している監視カメラの映像（10 月 18 日）です。
- ・ 右下図：御釜北（御釜の北約 800m）に設置している監視カメラの映像（10 月 24 日）です。

注 1）御釜から噴気が噴出した場合、遠刈田温泉及び上山金谷では高さ 200m 以上のときに観測されます。
点線赤丸が御釜の位置を示します。

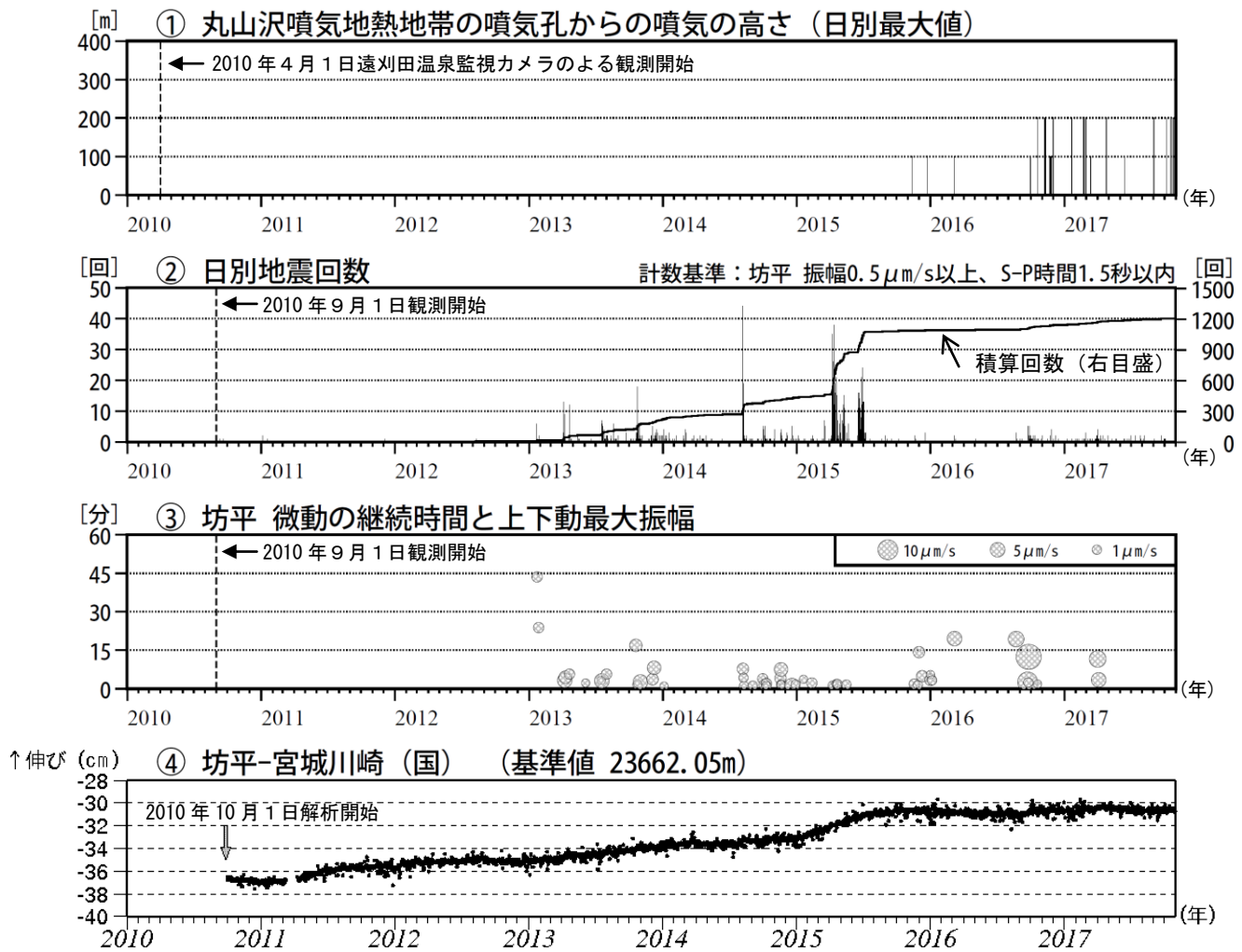


図 2 蔵王山 火山活動経過図（2010年4月～2017年10月）

- ・ ①遠刈田温泉（山頂の東約13km）に設置されている監視カメラによる観測です。
- ・ ④は図 6 のGNSS¹⁾ 基線①に対応しています。

1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

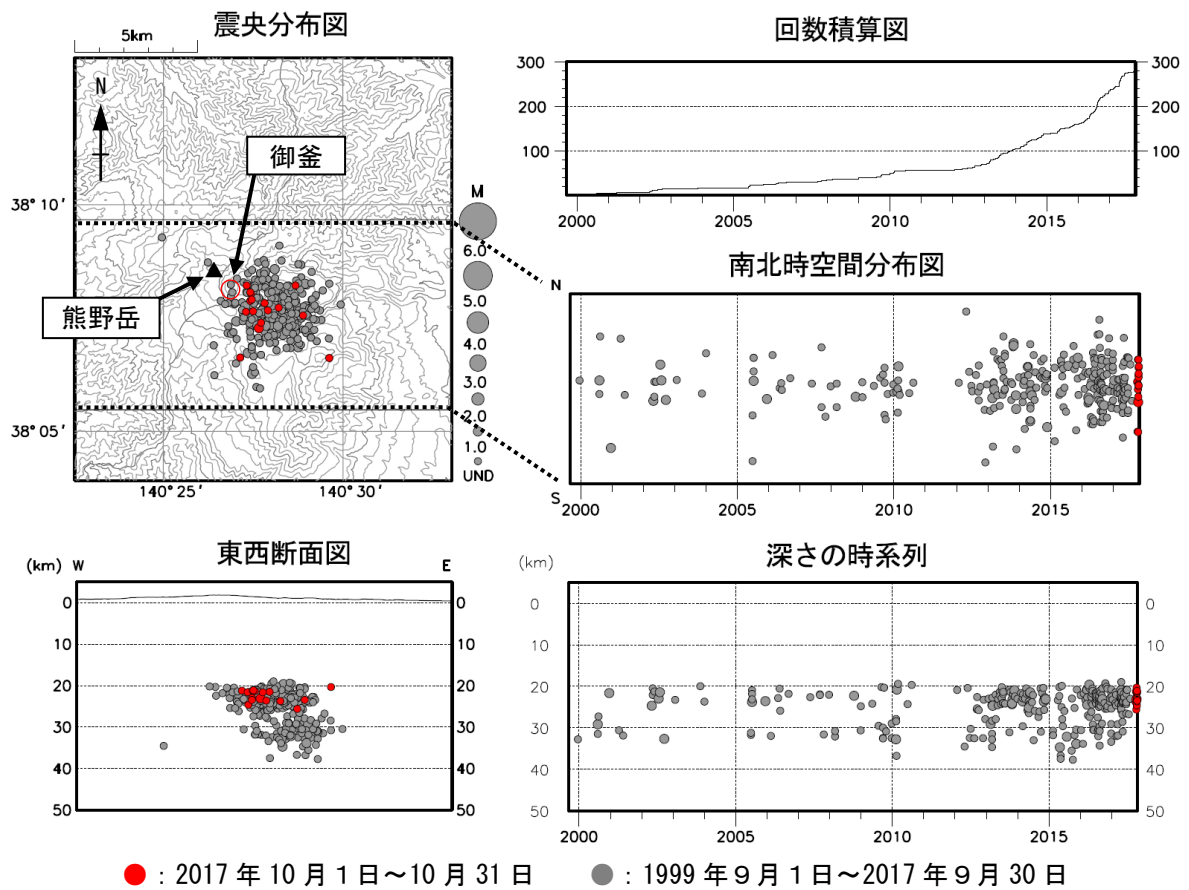


図3 蔵王山 広域地震観測網による深部低周波地震活動（1999 年 9 月～2017 年 10 月）

・ 2013 年以降、深部低周波地震（特に深さ 20～30km 付近の地震）が増加し、やや多い状態で経過しています。

注）2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

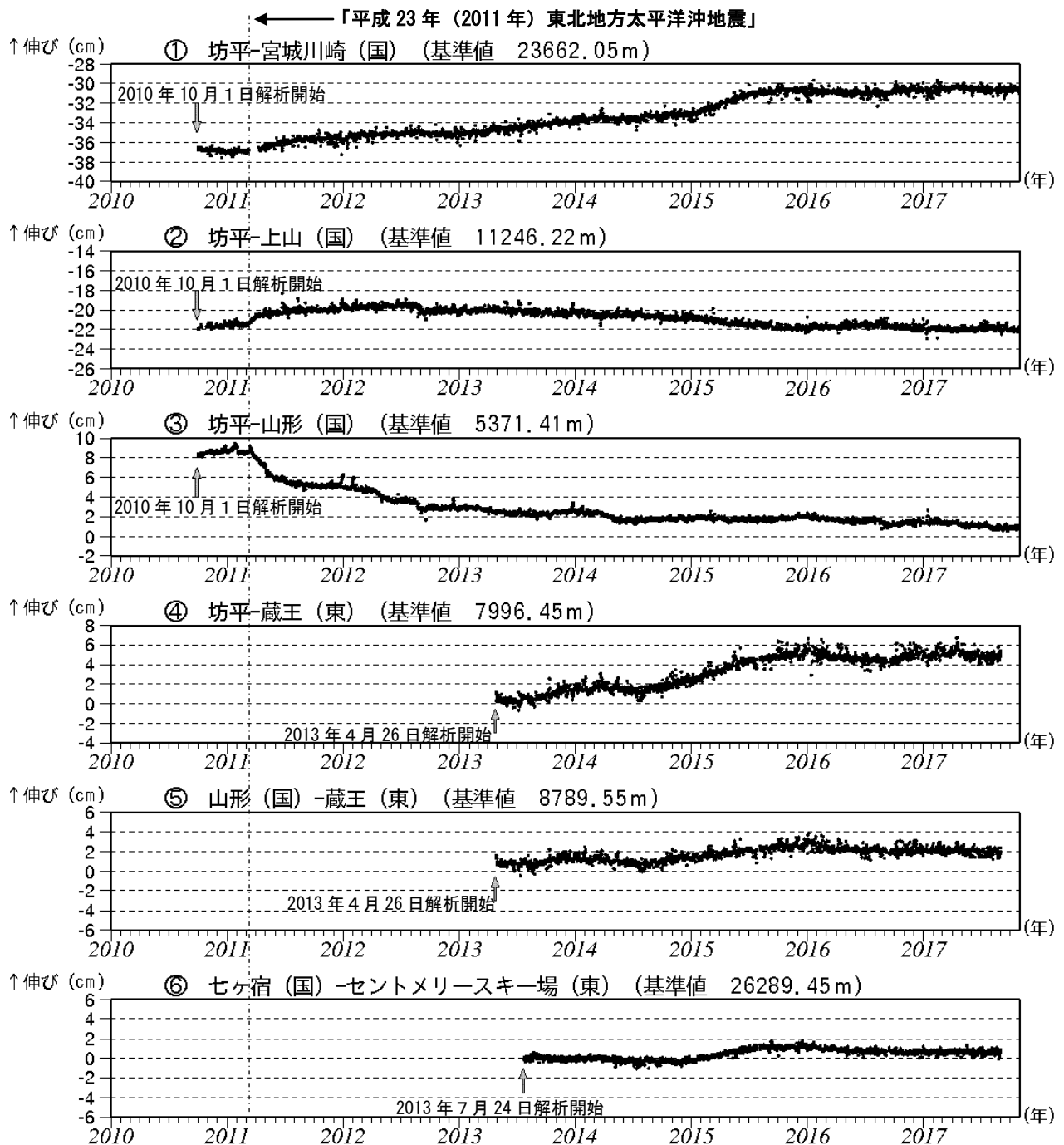


図 4 蔵王山 GNSS 基線長変化図（2010 年 10 月～2017 年 10 月）

- ・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑥は図 6 の GNSS 基線①～⑥に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ・東北大学の基線で解析遅れがあります。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学の観測点を示します。

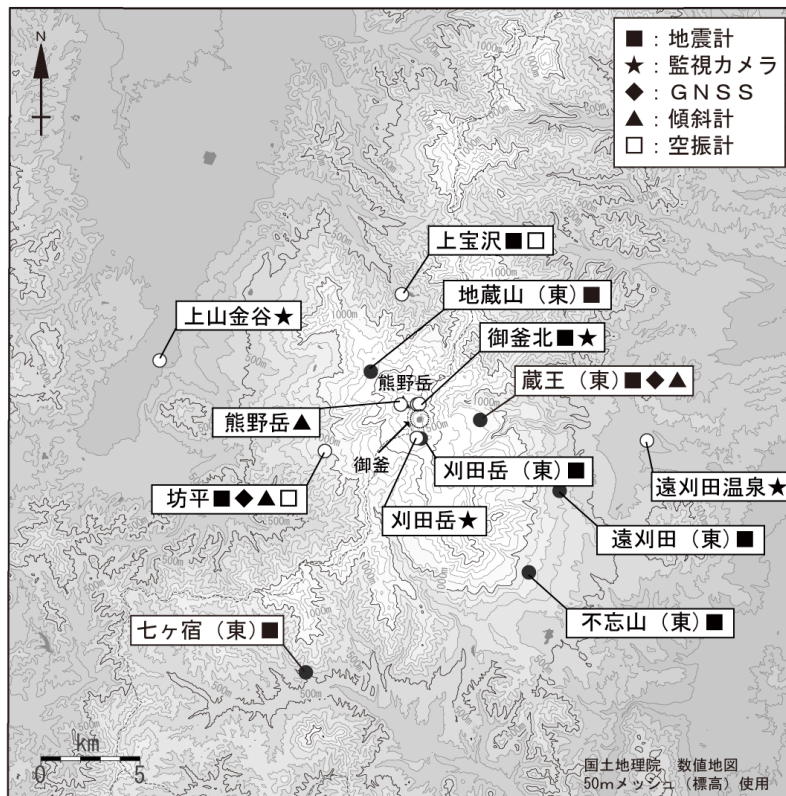


図5 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東）：東北大学

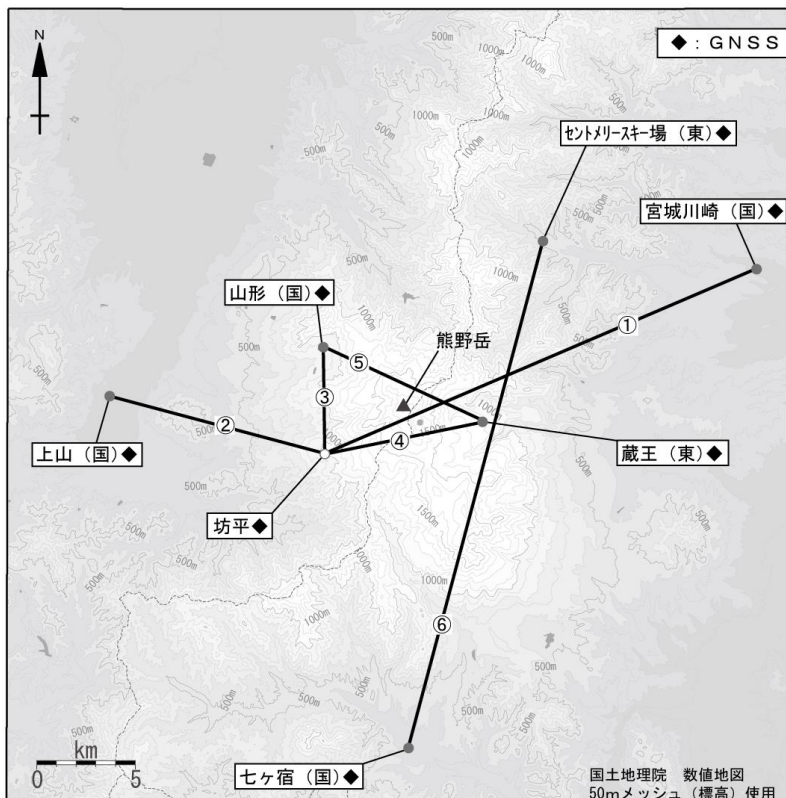


図6 蔵王山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院 （東）：東北大学